

# もっと活用 !! ICT !!

～ICT を授業以外でも活用し、情報活用能力を伸ばす～



このリーフレットは、一人一台端末が各教科の授業はもちろん、授業以外でも最大限に活用されることを目指し、作成しました。

授業以外での活用には、子供自身が使う場面を増やすこと、家庭での活用を日常化すること、そして教職員自身も積極的に活用することの三つが重要であると考えています。愛知県義務教育問題研究協議会で、たくさんのアイデアを集めましたので、ぜひ参考にしながら一人一台端末を日常的に使用し、子供たちの情報活用能力を伸ばしていきましょう。

## 1 もっと子供がICT

子供の活躍の場を広げる / 特別な支援が必要な子供を輝かせる

## 2 もっと家庭でICT

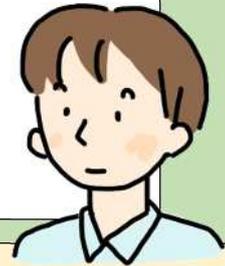
家庭学習で活用する / 家庭との連携に活用する

## 3 もっと教師もICT

子供と過ごす時間を増やす / 教職員のみinnで活用する

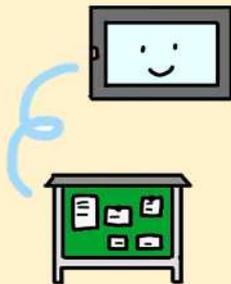
# 1. もっと子供が ICT

ICTを活用して子供の活躍の場を広げる  
何かよい方法はないかな？



**アイデア 1** 委員会活動の時間にも一人一台端末を使ってみてはどうでしょうか。

学習支援ソフトを使って、子供が委員会活動に関連する話題を自分で調べてまとめたり、全校に伝えたいことを記事にしたりします。電子データなので、教材への活用、各種たよりの掲載も容易にでき、子供の活躍の場が広がります。



## ○ ポイント

不確定な情報や間違った情報が広まらないよう、教師が子供の活動を見守り、助言します。最初は見本を示すとよいです。



**アイデア 2** 私の学校では、地域の防災訓練で子供が一人一台端末を活用して、大活躍しました。

一人一台端末の機能（画像・動画撮影、情報の伝達・交換や共有）は、災害時にも役立ちます。私の学校の地域防災訓練では、子供たちが一人一台端末を活用して、地域の方と交流しながら、街の情報をリアルタイムに取材し、防災活動に貢献しました。



## ○ ポイント

安全に防災訓練を実施するため、地域の方との打合せを丁寧に行い、子供たちの役割を明確にしましょう。



**アイデア 3** オンライン集会を子供に任せると、企画力・運営力・発信力を大きく伸ばすことができます。

各教室をウェブ会議ソフトでつなぎ、オンラインで児童集会を行います。企画の段階で子供たちからアイデアを募り、オンラインを生かした集会にします。映像やチャット等で双方向にやり取りをし、各教室からクイズをすることもでき

ます。一人一台端末を持ち運んで撮影すれば、テレビ番組のような多元中継も可能です。

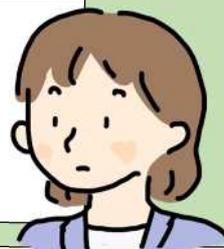


## ○ ポイント

テレビ番組等をイメージしながらアイデアを出し合い、考えるよう促すことで、子供たちの企画力・運営力・発信力が高まります。



# 特別な支援を必要としている子供を、 ICTで輝かせる方法はありませんか？



**アイデア4** 一人一台端末の撮影機能を使えば、書くことが苦手な子供でも観察記録を楽しくつけられます。

文字や文章を書くことを負担と感じている子供は、写真で撮影したものを記録として蓄積していったはどうでしょうか。負担になる活動を取り除くことで、学習への意欲が増した子供が本校にはいます。



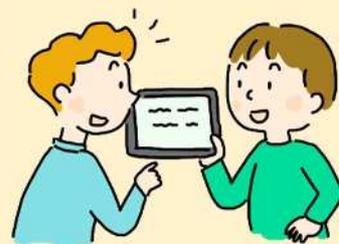
## ○ ポイント

一人一台端末で作成したものを、発表や掲示に活用すると、子供たちの認め合いにもつながります。



**アイデア5** 一人一台端末の翻訳機能を使いこなせば、外国にルーツをもつ子供の目が輝きます！

外国から来たばかりの子供が、少しでも日本の学校生活になじむことができるように、一人一台端末の翻訳機能を使いましょう。授業に参加したり、友達と少しでも話したりすることができれば、子供の目も輝きます。



## ○ ポイント

一人一台端末を子供が自分で操作できるようになると、主体的に道具として使うことができるようになります。



**アイデア6** 不登校の子供と担任がウェブ会議ソフトでつながると、少しでも不安を和らげることができます。

不登校の子供と担任がウェブ会議ソフト等でつながれば、学校の授業の様子を伝えることができます。また、不登校の子供が家庭で取り組んだ学習を写真や動画で送れば、学校に自分の頑張りを伝えることもできます。チャットならば話が

できる子供もいますので、友達とつないだり、学校との距離を縮めたりすることができます。



## ○ ポイント

学校とつながると、保護者の安心感にもつながります。管理職にも、そのチームに入ってもらいと、より安心です。



## アイデア +α

- ・大きな行事に関する予告動画、報告動画等を子供が作成し、全校に放送する。
- ・朝の支度のマニュアル等を、子供自身が一人一台端末で作成する。
- ・外国籍の子供が成長を実感できるよう、日本語を使ってロールプレイする動画を蓄積する。
- ・ウェブ会議ソフトで、他校の特別支援学級等と定期的に交流を行う。

## 2. もっと家庭で ICT

家庭学習に一人一台端末を使いたいけれど、  
どこから始めればよいのかしら？



**アイデア7** 保護者の理解を得ながら、少しずつでもよいので、持ち帰りを日常化していきましょう。

一人一台端末を家庭でも活用するには、保護者の理解が欠かせません。Wi-Fi がない家庭のことを考えて、オフラインでも可能な使い方から始める、週に一回から始めるなど、少しずつ活用の幅を広げていきましょう。



### ○ ポイント

持ち帰りを日常化すると、休校や学級閉鎖の時にも慌てずにすぎみます。持ち帰る日は、荷物の重さ等にも配慮をしましょう。



**アイデア8** 毎日の習慣となっている取組を、一人一台端末を使ってやってみましょう。

今まで生活記録ノートに書いていた翌日の連絡や持ち物、毎日の日記を、一人一台端末を使って取り組んでみてはどうですか。毎日の取組ならば、継続的に取り組みつつ、子供のタイピングのスキルも伸ばすことができます。



### ○ ポイント

毎日行う活動に一人一台端末を活用することで、家庭でのICT利用が日常化していきます。前もって約束事も決めておきましょう。



**アイデア9** 家庭ならではの使い方ができる宿題を、一人一台端末で取り組ませてみてはどうですか。

「家庭にある外国産の食品表示を写真に撮る」「見本動画を参考にピアノの練習を見てもらう」「学校でのスピーチの様子をおうちの人に見せ、コメントをもらう」など、家庭学習に一人一台端末の活用が必要な宿題を出してみましょう。子

供が、ICTを活用して学ぶ姿を保護者に見てもらおうと、多くの協力を得られやすくなります。



### ○ ポイント

持ち帰りを始めたら保護者アンケートを取り、家庭での課題を共有して一緒に解決法を探ると、情報モラルでの連携が深まります。



# 他の学校では、家庭との連携に どのようにICTを活用しているの？



**アイデア 10** 私の学校では、日々の学校の様子を配信して、保護者や子供とのつながりを深めています。

日々の授業の板書、学校の様子や連絡等の写真をウェブ会議ソフトの学級グループに載せることで、保護者にも様子が伝えられます。生活や学習の振り返りにも活用できますし、長期休業中のつながりも期待できます。



## ○ ポイント

学級の中でグループを作成し、日々の様子や連絡を公開しておく、保護者の関心や安心感も高まり、連携がとりやすくなります。



**アイデア 11** 保護者が学校に行かなくても参加できる「オンライン説明会」は大変評判がよいです。

感染症等が流行した際でも、人を集めることなく説明会を開催できます。リアルタイムで配信する方法だけでなく、あらかじめ撮影しておいた動画を流す方法等もあるので、学校の状況に合わせた形で開催することができます。



## ○ ポイント

限定公開という方法で配信すれば、学校が提示したURLや二次元バーコードを知る人だけに見せることができます。



**アイデア 12** 休校や学級閉鎖等の時も、ウェブ会議ソフトが使えると、子供への支援ができます。

ウェブ会議ソフトを使えば、教職員が自宅待機をしている子供と顔を合わせることができ、家庭での様子を確認することができます。また、学習支援ソフトを用いれば、自宅待機中の子供への学習支援をすることもできます。家庭でいつで

も学習ができるよう、オンデマンド形式の学習支援から始めてみてはどうでしょうか。



## ○ ポイント

他の授業で使った教材や板書等も利用して、一人一台端末を用いた学習支援が教職員の負担になりすぎないようにしましょう。



## アイデア + α

- ・実施済みのテストのデータを学習支援ソフトで送信し、復習に役立てるよう促す。
- ・様々なICTを活用した宿題のアイデア

夏休みのあさがお観察(生活)、月の写真撮影(理科)、部屋を掃除し前後を記録(家庭科)、自主学習の記録(九九暗唱・学習ノート撮影等)、自由研究をスライドで作成(各教科)・・・

# 3. もっと教師も ICT

どのようにICTを活用すれば、  
子供と過ごす時間が増えるのかな？



**アイデア 13** 資料をデジタル化すると、いつでもPCやタブレットで確認できるので、時間を生み出せます。

会議資料や年間・月・週等の予定をデジタル化すれば、教室でも常に情報を確認することができます。また、資料作成や印刷・配布にかかる時間も削減でき、ペーパーレスにもつながります。

教職員の連絡事項も端末で共有すれば、打合せをもつ機会を減らせます。



## ○ ポイント

緊急時の対応マニュアルや学校独自のガイドブック等、いつでも内容を確認できるようにデジタル化しておく便利です。

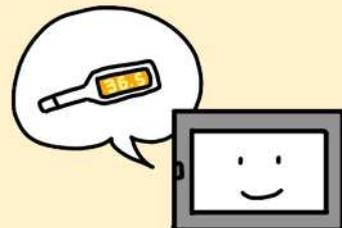
もっと



くわしく

**アイデア 14** 一人一台端末を活用して日々の検温や健康観察を行うのは、大変おすすめてです。

感染症対策として行っている検温や健康観察を、一人一台端末を使って子供自身に入力をさせれば、検温表を集める必要がなくなります。教職員に直接提出するので、子供も安心して健康状態を伝えることができます。



## ○ ポイント

教職員間で記録を共有すれば、担任以外の教職員でも職員室から子供の健康状態や欠席を確認することができます。

もっと



くわしく

**アイデア 15** 行事等の振り返りや反省は、アンケートフォームを活用すれば簡単に作成・集計ができます。

行事が終わった時に、振り返りを行う学校も多いと思います。質問の項目や、対象となる子供や教職員の数が多いと、それだけで一苦労です。ウェブを活用したアンケートフォームを使えば、簡単にアンケートを作成し、あっという間に集

計もできます。ウェブのアンケートフォームを使い、子供と過ごす時間を増やしましょう。



## ○ ポイント

保護者がウェブでの回答に慣れるまでは、プリントでも回答ができるよう、併用をおすすめします。

もっと



くわしく

# ICTに苦手意識のある先生に積極的に使ってもらおうよい方法はないかな？



**アイデア 16** 子供との連絡に使うなど、使用場面を増やすことで慣れてもらうのはどうでしょうか。

教職員と子供がつながることのできる学習支援ソフトを使ってみましょう。朝の会での連絡や、連絡帳に書かせていた持ち物等が配信できれば、時間短縮の効果を実感できます。慣れていくことで、苦手意識も変化します。



## ○ ポイント

学級のグループ、委員会のグループ等、所属に応じてグループを作るとよいです。教職員がしっかりと見守るようにしましょう。



**アイデア 17** まずは、全ての教職員が普段の校務の中で使う場面を増やすことから活用をスタートしました。

授業でいきなり新しいアプリを使うのは不安なので、まずは、教職員が普段の校務の中で使うことが重要です。職員会議での議題に関する意見を表計算ソフトで集めて共有するなど、授業につながる試みをまずは教職員の間でやってみましょう。



## ○ ポイント

校内研修や職員会議の中で一人一台端末を活用し、意図的に全ての教職員が触れる場面を作ります。



**アイデア 18** 校内で小さな研修を積み重ね、授業で使えるアプリを少しずつ増やしましょう。

OSに標準で用意されているアプリには、授業で使えるものがたくさんあります。校内で、小さな研修会を行ったり、使い方の説明動画を校内の共有ドライブに入れ、いつでも見られるようにしたり、短時間でできる校内研修を活性化させましょう。

### このリーフレットで活用されているOS標準の様々なアプリ

学習支援ソフト	クラズルーム	Google Classroom™	Teams
文書作成ソフト	Pages	Google ドキュメント™	Word
表計算ソフト	Numbers	Google スプレッドシート™	Excel
プレゼンテーションソフト	Keynote	Google スライド™	PowerPoint
デジタルホワイトボードソフト	フリーボード	Google Jamboard™	Whiteboard

## アイデア + α

- ・授業のワークシートや振り返りを全てデジタル化し、印刷や集約の手間を減らす。
- ・研究授業の感想や気付き等を、表計算ソフトで集約し、協議の時間を短縮する。
- ・ICTに関する校内の困りごとを集約したFAQを作成し、クラウドで共有する。
- ・クラウドでうまくいった事例を紹介したり資料を共有したりする。職員間チャットも活用する。

## —子供の情報活用能力を伸ばしていきましょう—

現在、学校は、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を進めながら、子供が資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指しています。その学びや学び方を、効果的・効率的に支援するツールが、一人一台端末に代表されるICTです。

これからの子供たちに必要とされる **情報活用能力** は、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために、ICTも適切に用いながら、情報を整理・比較したり、発信・伝達したり、共有したりする力です。この力は、授業だけでなく、様々な場面での活用によっても育っていきます。

なかでも、**情報モラル**に関しては、発達段階に応じて、保護者とも連携して育成していくことが大切です。そこでは、IDやパスワードの適切な管理や、自分の生活とメディア利用時間との適度なバランス、SNSでの上手なコミュニケーション等について、安全に行動するための方法や理由を学びつつ、最終的に子供が自分で判断して適切に活用し、行動する力と態度を身に付けることが必要です。

ICTを駆使して情報を主体的にとらえ、必要に応じて他者と協働しながら問題を解決したり、新しい価値を創造したりする時代が、もうそこまで来ています。このリーフレットを参考に、子供たちの情報活用能力を伸ばしていきましょう。

### <情報活用能力育成に有用なサイトの紹介>

#### StuDX Style

(文部科学省による一人一台端末の活用事例サイト)



「一人一台端末の有効的な使い方」事例集(県教育委員会が作成した授業でのICT活用事例集)



情報教育の充実に関する研究(愛知県総合教育センター作成の、動画によるICT活用授業の紹介)



#### 情報モラル学習サイト

(5分程度で情報モラルの学習ができるコンテンツをたくさん掲載)



#### ネット社会の歩き方

(モラル学習に使えるテキスト PDF等がダウンロード可能)



児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック(文部科学省の健康面に関する指針)



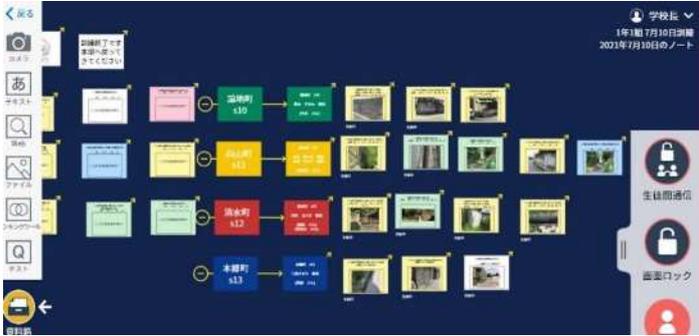
# 1 もっと子供がICT

## アイデア1 情報を収集・発信する機能を生かして、全校に熱中症予防を呼びかける

活用場面	・委員会活動
準備するもの	・情報収集、情報発信ができる 学習支援ソフト 
活動の概要	<p>保健委員会の生徒から、熱中症の予防法について話し合いたいという提案が担当教職員にあった。これまでは、養護教諭が中心となって保健だよりを作成し、全校生徒に熱中症の危険性や予防法について紹介していた。しかし、一人一台端末にインストールされている学習支援ソフトの「情報を収集する、発信する機能」を生かせば、保健委員の生徒が考えた熱中症予防法を簡単にまとめ、全校生徒に発信することができる。生徒からも「自分たちの言葉で予防法を伝えたい」という意見が出て、実践することにした。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 委員会で、熱中症についての基本的な知識を養護教諭が事前に指導する。</li> <li>② 委員同士で、考えたいことについて意見交換し、内容を検討する。</li> <li>③ 委員が、自分の考えの根拠となる情報をインターネット検索で探す。養護教諭が検索した内容を点検し、適切な資料と判断したものは使用してよいこととした。</li> <li>④ 予防法は、学習支援ソフトを使ってA4用紙1枚に収まるようにまとめ、できあがったデータを資料箱に保存する。養護教諭は、資料箱に保存されたデータを PDF 形式や画像形式でダウンロードし、保健だよりに掲載した。(資料1)また、職員室前の掲示板にポスターとして掲示したり、熱中症予防について学ぶ授業で使用する補助教材として、教職員が活用できるようにした。</li> <li>⑤ 授業後、予防法を学んだ生徒の感想を保健だよりに掲載した。(資料2)</li> <li>⑥ 熱中症予防として一般的な内容だけでなく、学校の実情に合わせた予防法が提案され、全校に分かりやすい内容となった。</li> </ol> <div data-bbox="943 607 1422 1126" data-label="Image"> </div> <p>【資料1 生徒のまとめを掲載した保健だより】</p> <div data-bbox="831 1464 1422 1816" data-label="Image"> </div> <p>【資料2 予防法を聞いた生徒の感想】</p>
この実践の良さ	情報を収集し、適した資料を選んで整理し、発信・伝達することは、情報活用能力の育成そのものに直結します。デジタルデータを二次利用することで、教職員が時間をかけることなく子供の活躍の場が広がっていきます。

# 1 もっと子供がICT

## アイデア2 情報を収集・発信する機能を生かして、地域の防災訓練に参加する

活用場面	・総合的な学習の時間 課外活動
準備するもの	・情報収集、情報発信ができる学習支援ソフト 
活動の概要	<p>まちづくり協議会の防災担当の方から、全児童に配布された一人一台端末が被災状況の情報収集に有効活用ができるのではないかと提案をいただいた。そこで、まちづくり協議会、こども防災リーダー養成講座、学校の3者が協力して検証訓練を行った。</p> <p>一人一台端末にある学習支援ソフトの機能を活用して、各地区の防災担当者と子供がペアとなり、町内の各地点から静止画像や文字情報をカードに貼り付け、本部へ情報を送信する実験を行った。</p> <p>子供たちの一人一台端末はLTE回線(携帯電話のように屋外でも使える回線)でつながっているため、どこにいてもインターネットがつながる。また、子供たちは授業で学習支援ソフトを活用しているため、その操作を熟知している。そのため、同行している大人が指示したことを素早く写真や動画として記録したり、文字情報に変換したりして、詳細な状況を速やかに本部へ送信することができた。</p> <p>今回のように、災害時に地域の担当者(大人)と子供たちが協力すれば、災害対策本部がより迅速に被災状況を把握でき、その後の対応をいち早く進めることができる。子供たちが救助活動や復旧活動の一役を担うことができることが確認できた。さらに、学習支援ソフトは、クラウドサーバー上に置かれたデータを共有するため、ウェブ会議ソフトのリアルタイム通信のように、通信状況の悪化によって情報が欠損する心配がない。そのため、災害時の通信環境が不安定な状況下でも有効な情報伝達手段になり得ることが実感できた。</p>  <p style="text-align: right;">【災害対策本部から子供へ指示を出す】</p>  <p style="text-align: right;">【子供から発信された地区の状況】</p>
この実践の良さ	Wi-Fiがなくても接続できるLTE回線がつながっている自治体はまだわずかですが、通信環境を十二分に生かした実践です。地域の方と一緒に取り組むことで、学校でのICTを活用した教育を、多くの方にも知ってもらうことができます。

# 1 もっと子供がICT

## アイデア3 オンライン児童集会の企画・運営を子供たちに任せ、活躍の場を広げる

活用場面	・児童会生徒会活動・委員会活動									
準備するもの	・ウェブ会議機能のある学習支援ソフト <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  クラスルーム                  Google Classroom™                  Teams                 </div>									
活動の概要	<p>各教室をウェブ会議機能のある学習支援ソフトでつなぐことで、移動することなく、教室に居ながら児童集会を行うことができる。</p> <p>企画の段階から、オンラインを生かした集会のアイデアを子供から募る。映像やチャット等で双方向にやり取りをすれば、各教室から答えてもらうことができる。</p> <p>さらに、一人一台端末を持ち運んで撮影すれば、テレビ番組のような多元中継も可能となる。インタビュアーがどこかの教室に行き、リアルタイムでやり取りを中継することで、全校のつながりや一体感を高めることもできる。テレビ番組等をイメージしながらアイデアを出し合い、考えていくよう促すことで、子供たちの企画力・運営力・発信力が高まる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>活動例</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">委員会の活動に関するクイズ</td> <td style="width: 33%;">年中行事に関する雑学クイズ</td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td>各学級の自慢</td> <td>〇〇さんの特技披露</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学級対抗〇〇勝負</td> <td>行事の見どころ紹介</td> <td>など</td> </tr> </table> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">【図書委員会からの企画：本の紹介と読み聞かせの様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">【リサイクル委員会の企画：映像やチャットを駆使し、双方向でやり取りをする】</p>	委員会の活動に関するクイズ	年中行事に関する雑学クイズ		各学級の自慢	〇〇さんの特技披露		学級対抗〇〇勝負	行事の見どころ紹介	など
委員会の活動に関するクイズ	年中行事に関する雑学クイズ									
各学級の自慢	〇〇さんの特技披露									
学級対抗〇〇勝負	行事の見どころ紹介	など								
この実践の良さ	子供を主体としたオンライン集会に取り組んだ実践です。単にこれまでの集会をオンラインにするのではなく、テレビ番組を参考にするなど、オンラインならではの工夫を盛り込んだことに良さがあります。									

BACK

# 1 もっと子供がICT

## アイデア4 一人一台端末の撮影機能で、無理なく学習の記録を蓄積する

活用場面	・特別な支援を必要とする子供への日常支援
準備するもの	・プレゼンテーションソフト、プリンタ 
活動の概要	<p>自立活動で野菜の栽培を行い、その変化や成長の様子を一人一台端末で撮影し、記録している。記録したものはプレゼンテーションソフトを用いて発表用資料としたり、写真をプリントアウトして掲示物を作成したりしている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="443 752 890 1077">  <p>【野菜の栽培記録を作成する】</p> </div> <div data-bbox="914 752 1361 1077">  <p>【野菜の栽培の記録の掲示物】</p> </div> </div> <p>また、毎月のカレンダーを各自が作成している。各自が、一緒に写真を撮りたい教職員や友達に自分で声をかけ、一人一台端末で写真を撮って作成したカレンダーを教室に掲示している。</p> <p>一人一台端末を活用することで学習意欲が増し、また自分たちの記録が視覚化されることで、互いを認め合うことや個々の自信にもつながっている。</p> <div data-bbox="1042 1171 1393 1608">  <p>【子供が作成したカレンダー】</p> </div>
この実践の良さ	<p>子供の特性に応じてICTを活用することは、今後ますます重要になってきます。ICTで補うことができれば、その子の良さを伸ばすことにしっかりと時間を使うことができます。子供が作成したカレンダーも、意欲を伸ばすことにつながっています。</p>

# 1 もっと子供がICT

## アイデア5 外国にルーツをもつ子供が翻訳機能を利用して授業を理解したり、会話したりする

活用場面	・外国にルーツをもつ子供への日常支援
準備するもの	・プレゼンテーションソフト（翻訳機能付）、翻訳ソフト 
活動の概要	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限が少しずつ緩和され、海外から編入してくる外国籍児童生徒が増えてきている。まだ日本語の習得が十分でなく、なかなかコミュニケーションを図ることが難しい子供には、少しでも日本の学校生活になじむことができるよう一人一台端末を活用している。</p> <p>一人一台端末の翻訳機能を使って授業に参加したり、教職員や友達と会話したりする。プレゼンテーションソフトの翻訳機能は、話し手の言葉を認識する能力が高く、すぐに希望の言語に訳して表示されるため、日常的に使用しやすい。</p> <p>【翻訳ソフトを活用して話し合いに参加する】</p> <p>⇒ プレゼンテーションソフト  を活用した翻訳機能の使い方</p> <p>また、ワークシート等自分で問題を解き進める場面では、翻訳ソフトを使って、問題文の日本語を母国語に変換して問題の意味を理解したり、答えたりする。ワークシート等に取り組む場合には、翻訳ソフトを使い、自分でワークシートの日本語を母国語に変換し、内容を理解して書き進めることができる。やや手間と時間がかかるが、「自分の力で学習できる」良さがある。</p> <p>※ 保護者による送迎ができず、校外の日本語適応指導教室に通学困難な外国籍児童生徒もいる。そのような子供は、日本語適応指導教室とウェブ会議ソフトで繋がることで、通学しなくても初期指導の授業を受けることができる。</p>
この実践の良さ	携帯型の翻訳機等も使われるようになってきましたが、一人一台端末を使って、「自分の道具」として活用できる点に実践の価値があります。自分に必要なICTの機能を使えるようになることは、生きる力にもつながります。

# 1 もっと子供がICT

## アイデア6 不登校の子供と担任がICTでつながり、学校からの支援を広げる

活用場面	・ 不登校児童生徒への日常支援
準備するもの	・ ウェブ会議機能のある学習支援ソフト <div style="text-align: right;">    </div>
活動の概要	<p>保護者の同意及び管理職の許可を得た上で、不登校傾向の子供のアカウントと、担任のアカウントとのグループを作成する。チャットや写真、動画等で学校の授業の様子を伝えたり、子供が家で取り組んだ学習を写真や動画で載せたりすることで、子供と学校がつながり、学校から離れている子供の不安を少し和らげることができる。</p> <p>子供の状況や個性に合わせて、教職員とチャットでやり取りをしたり、学級内の仲の良い子供もグループに招待し、子供同士のつながりを生み出したりすることもできる。</p> <p>日常の学校の様子、家庭での子供の様子をやりとりすることで、保護者の安心感にもつながる。管理職もグループに入ってもらい、日常的に閲覧しておいてもらうと、より安心である。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>6月16日、17:35</p> <p>きのうは、ひさしぶりに 君に会えてとてもうれしかったよ！ 元気そうでよかったです♪</p> <p>小物入れのメッセージありがとう！写真も送ってくれてうれしいです😊 とってもいい作品ができたね！上手です！ さっそく作れちゃうなんてすごいね！ せっかくなので小物入れができたので、おうちで大事に使ってくださいね😊</p> <p>返信</p> <p>6月17日、18:06</p> <p>理科の実験をしました。</p> <p>ビデオ-20220617-000646-2d76d17f.mov 448 KB</p> <p>6月16日、12:22</p>  <p>返信</p> <p>6月16日、12:24</p> <p>つないで組んですてきな形で小物入れが、できました。😊</p> </div> <p>【チャット・写真・動画等で学校の様子を伝えたり、家庭での子供の様子を聞いたりする】</p>
この実践の良さ	<p>双方向のやりとりが可能になると、学校に来られない子供に対してできる支援が大きく増えます。隙間時間を見つけてコミュニケーションが図れますし、子供の家庭での頑張りを認めることで、学習に対する意欲も喚起することができます。管理職も含め、複数の目で見守ることができる点にも良さがあります。</p>

## 2 もっと家庭でICT

### アイデア7 保護者の理解を得ながら、少しずつ持ち帰りを日常化する

活用場面	・家庭への一人一台端末の持ち帰り
準備するもの	・通信環境調査や持ち帰りの約束等の事前準備  
活動の概要	<ol style="list-style-type: none"><li>1 保護者の理解を得るための下準備をする<ul style="list-style-type: none"><li>・各家庭における、Wi-Fi 環境等に関する調査を行い、家庭での通信環境等を確認する。ポケット Wi-Fi 等の準備が整っている場合は、通信環境の整っていない家庭への支援を準備する。</li><li>・学校・教育委員会等から、一人一台端末の持ち帰りの目的や持ち帰りの約束等を記したお便りを配布する。必要な場合は、保護者からの確認文書等を受け取る。</li><li>・家庭での一人一台端末の使い方について、発達段階に応じた情報モラルの指導を行う。</li></ul></li><li>2 一人一台端末の持ち帰りを試験的に行う<ul style="list-style-type: none"><li>・安全に持ち帰りを行うことができるよう、端末を保護するタオルや入れ物を持たせるなど、最初の指導に注意を払う。</li><li>・初めのうちは、オフラインでできる宿題に取り組みさせるなど、スモールステップを意識して取り組む。</li><li>・家庭の Wi-Fi への接続方法等、技術的な相談については、ICT支援員等の協力を得るとよい。</li></ul></li><li>3 端末の持ち帰りに関する成果と課題を集約する<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者、子供、教職員から、一人一台端末の持ち帰りに関するアンケートをとり、成果と課題を明らかにする。</li><li>・明らかになった課題を整理し、改善を試みる。</li></ul></li><li>4 端末の持ち帰りを日常化する<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭の理解を得ながら、月に1回、週に1回等、段階的に持ち帰りを日常化していく。</li></ul></li></ol>
この実践の良さ	一人一台端末を使った学校教育は、保護者自身も受けたことがありません。健康面や、端末の使い過ぎ等に対する心配だけでなく、保護者は破損等についても心配をしていますので、アンケートで保護者が不安に感じていることをとらえ、少しずつ解決していこうとする姿勢が、学校に対する信頼感を高めています。

**BACK**

## 2 もっと家庭でICT

### アイデア8 生活記録ノートとして一人一台端末を活用する

活用場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翌日の予定や持ち物、連絡等の確認、家庭での生活記録の記入</li> </ul>
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翌日の連絡を記入したり、生活記録を記入したりできる学習支援ソフト</li> </ul> 
活動の概要	<p><b>1 翌日の授業の予定や教科の持ち物、連絡等を一人一台端末を用いて記入する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の状況に合わせ、手書き・タイプ入力・写真等児童生徒の現状に合った方法で記録をする。</li> <li>・一人一台端末を持ち帰り、家庭で連絡を確認し持ち物の準備をする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 翌日の持ち物の準備で必ず一人一台端末を使用するため、一人一台端末の持ち帰りが必要となる。また、AIDリル等が整備されていない学校でも、家庭で活用させる方法となる。</li> <li>◎ 使用するソフトによっては教科連絡を皆で共有することもできる。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>2 1日の生活記録を一人一台端末で記入する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で行う宿題として、1日の生活記録を一人一台端末で記入する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 絵文字等で簡単に心の状況を表すことのできるスタンプ機能を活用したり、生活記録に教職員への質問や悩み事相談等を書いたりするように促すことで、生徒指導にも役立てることができる。ノートを回収する必要がないため、教職員以外の人に内容を覗かれる心配がない。そのため、悩み事を相談しやすい。</li> <li>◎ スタンプ機能を使えば、表現が苦手な生徒の心の推移を知ることができる。</li> <li>◎ 教職員はPCや一人一台端末で生徒の記録を一括で確認することができる。</li> <li>◎ 提出させる必要がないため、教職員が朝に出勤した時点からPCや一人一台端末で生徒の生活記録を確認でき、スタンプやコメント返しの時間がつくりやすい。</li> </ul> </li> </ul> <div data-bbox="730 1373 1417 1697" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">  <p>【生徒の生活記録】</p> </div>
この実践の良さ	<p>一人一台端末を文房具のように使用し、情報活用能力を育成するには、とにかく日常的に使用することが一番です。子供のタイピング能力を高めたり、教職員の負担を軽減したりするなど、様々な面での効果が期待できます。</p>

**BACK**

## 2 もっと家庭でICT

### アイデア9 家庭学習で一人一台端末を有効利用して、保護者の不安を和らげる

活用場面	・家庭への一人一台端末の持ち帰り
準備するもの	・持ち帰りの約束等の事前準備
活動の概要	<p style="text-align: center;"><b>■家庭で一人一台端末を有効活用する様々なアイデア■</b></p> <p>&lt;全学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・音読練習、リコーダー練習等を動画で撮影する。</li><li>・表現運動の動画を見て練習する。</li><li>・教科書の二次元バーコードを読み込んで復習をする。</li><li>・学芸会の台本を配付し、児童がやってみたい役の台詞を音読する様子を動画で提出させ、配役決めの参考にする。</li><li>・教科の内容に合わせて、児童が挑戦している様子を動画撮影や写真撮影し、提出する。(国:音読 社:町の様子 数:九九 理:観察記録 体:試技等)</li></ul> <p>&lt;小学校・低学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家の周りの秋を見つける。夏休み中のあさがおの様子を調べる。(生活科)</li><li>・わたしの町の様子、みんなの町の様子(写真)を比べよう。(生活科)</li></ul> <p>&lt;小学校・中学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・月や雲の写真を撮る。(理科)</li><li>・家の周りの小さな生き物、虫を見つける。(理科)</li><li>・スーパーマーケットのひみつ:買った野菜等の生産地を調べる。(社会)</li></ul> <p>&lt;小学校・高学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家庭で作った料理の写真を撮る。(家庭科)</li><li>・自分の部屋の片付け前・片付け後の写真を撮る。(家庭科)</li></ul> <p>&lt;中学生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実施済みの定期テストの問題を電子データ化し、学習支援ソフトで送信して復習する。</li><li>・体育等で撮影した動画を編集する。</li><li>・教科、総合的な学習等で取り組んでいる内容を一枚のスライドにまとめる。</li><li>・テスト勉強に関する計画づくりをすすめる。</li></ul>
この実践の良さ	ドリル学習に取り組ませるだけでなく、「情報活用能力を伸ばす」ことを意識した課題を準備していくことが必要です。子供の生活と学習をつなぐ課題を設定することは、生きる力にもつながります。

**BACK**

## 2 もっと家庭でICT

### アイデア 10 日々の様子を配信し、保護者や子供たちとのつながりを高める

活用場面	・ 家庭との連携、学校生活の振り返り
準備するもの	・ ウェブ会議機能のある学習支援ソフト <div style="text-align: right;">    </div>
活動の概要	<p>学級のグループを作成し、日々の授業の板書、次の日の連絡や学校の様子等の写真をそのグループに載せていく。そうすることで、子供たちだけでなく、保護者にも学校の様子を伝えることができる。子供や保護者にとっても、学校生活、学習の振り返りに活用することができる。学校教育の様子が保護者に伝わるので、安心感が高まる。また、長期休業中には、学級で育てている植物や農作物等の様子を定期的に配信したり、子供の家庭での様子を確認したりすることで、休業中でのつながりも期待できる。このような積み重ねによって、保護者の関心も高まり、より連携がとりやすくなる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>6月24日、16:07</p> <p>算数は教科書 p66、67を進めました</p> <p><b>【板書の写真で学習の様子を伝える】</b></p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>8月4日、10:57</p> <p>こんにちは😊 今日はヒマワリの様子をお伝えします。 日ごろの暑さの中で、ぐんぐん成長しています。 先生もヒマワリにおいこされました。</p> <p><b>【長期休業中の学校の様子を定期的に配信し、新学期への意欲付けを図る】</b></p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p>7月1日、15:52</p> <p>月曜日の予定です。 漢字は再テストの人は月曜日に再テストするので、練習してきてください。合格者は漢字の練習はお休みです。計算力テストの勉強をしてきてください。漢字力テストの採点ミスがあったら、月曜日に先生に見せてください。</p> <p><b>【次の日の連絡を毎日載せ、保護者に学校の活動の予定を伝える】</b></p> </div> </div>
この実践の良さ	学級・学年通信は、保護者にも子供にも人気がありますが、作成に時間がかかることが課題です。ICTを使えば、短時間で学校の様子を伝えたり、記録に残したりすることができ、働き方の改善にもつながっていきます。

## 2 もっと家庭でICT

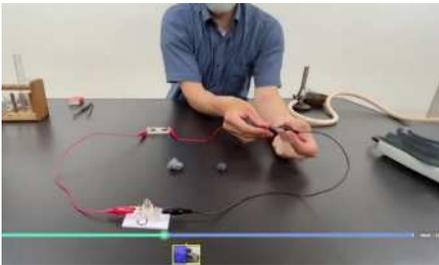
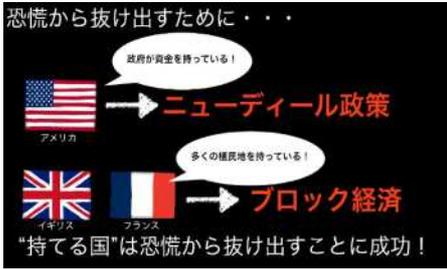
### アイデア 11 学校に行かなくても参加できる「オンライン説明会」を行う

活用場面	・ 入学説明会や修学旅行説明会等						
準備するもの	・ 動画撮影用ビデオカメラ等 						
活動の概要	<p>保護者が体育館等を集まって行う「〇〇〇説明会」は、どの学校でも行われてきた。しかし、「感染症等の流行で保護者が集まることができない」「校内に子供と保護者が全員入ることのできる場所がない」「欠席した保護者への説明の時間の確保が大変だ」など、様々な問題があった。</p> <p>これらを解決する方法として、オンライン動画プラットフォーム(ここでは YouTube を使用)を利用し、説明会を限定公開の動画で配信する方法がある。「限定公開」にすれば、検索では探すことができず、こちらが示したURLや二次元バーコードでのみ見ることができる。</p> <p>※ リアルタイムで配信する方法や、実際の説明会を撮影して、後日配信する方法もあるが、ここでは「事前撮影した動画」を配信する方法を示す。この方法は、スライドや、話す速さ等を配信向けの構成にできるので、配信で見る保護者にとって、最も分かりやすい動画になる。</p> <p>&lt;事前撮影した動画を配信する方法&gt;</p> <table border="1" data-bbox="427 1243 1401 1697"> <tr> <td data-bbox="435 1243 662 1355">① 動画の準備</td> <td data-bbox="662 1243 1401 1355">配信する動画を準備する。視聴者に見やすいスライドを作り、話す速さ等を意識して撮影できるとよい。撮影後に確認し、撮り直すこともできる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="435 1355 662 1512">② YouTube へのログインと動画のアップロード</td> <td data-bbox="662 1355 1401 1512">学校の Google アカウントを準備し、YouTube にログインして、動画をアップロードする。アップロードの際は、「公開設定」の項目を、「限定公開」に設定する。限定公開であっても、関係者以外が見る可能性はあるので、配信する内容には十分留意する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="435 1512 662 1697">③ 動画の URL や二次元バーコードを対象の保護者に配布</td> <td data-bbox="662 1512 1401 1697">動画の URL や二次元バーコードをプリント等で、対象の保護者に配布する。URL を手で入力するのは大変なので、二次元バーコードに変換して紹介するとよい。インターネットで「二次元バーコード作成」で検索すると、無料で二次元バーコードに変換するサイトが複数紹介される。</td> </tr> </table>	① 動画の準備	配信する動画を準備する。視聴者に見やすいスライドを作り、話す速さ等を意識して撮影できるとよい。撮影後に確認し、撮り直すこともできる。	② YouTube へのログインと動画のアップロード	学校の Google アカウントを準備し、YouTube にログインして、動画をアップロードする。アップロードの際は、「公開設定」の項目を、「限定公開」に設定する。限定公開であっても、関係者以外が見る可能性はあるので、配信する内容には十分留意する。	③ 動画の URL や二次元バーコードを対象の保護者に配布	動画の URL や二次元バーコードをプリント等で、対象の保護者に配布する。URL を手で入力するのは大変なので、二次元バーコードに変換して紹介するとよい。インターネットで「二次元バーコード作成」で検索すると、無料で二次元バーコードに変換するサイトが複数紹介される。
① 動画の準備	配信する動画を準備する。視聴者に見やすいスライドを作り、話す速さ等を意識して撮影できるとよい。撮影後に確認し、撮り直すこともできる。						
② YouTube へのログインと動画のアップロード	学校の Google アカウントを準備し、YouTube にログインして、動画をアップロードする。アップロードの際は、「公開設定」の項目を、「限定公開」に設定する。限定公開であっても、関係者以外が見る可能性はあるので、配信する内容には十分留意する。						
③ 動画の URL や二次元バーコードを対象の保護者に配布	動画の URL や二次元バーコードをプリント等で、対象の保護者に配布する。URL を手で入力するのは大変なので、二次元バーコードに変換して紹介するとよい。インターネットで「二次元バーコード作成」で検索すると、無料で二次元バーコードに変換するサイトが複数紹介される。						
この実践の良さ	<p>仕事を休まずに説明を受けられる「オンライン説明会」は、保護者に大変好評です。家族の誰でも、好きな時間に観ることができるという点にも価値があります。学校からの一方的な説明に終わらないよう、質問等があれば、チャットやアンケートフォーム等で問い合わせができるようにしておくと、オンラインの足りない部分を補うことができます。</p>						

BACK

## 2 もっと家庭でICT

### アイデア 12 休校や学級閉鎖時に学習支援を行う

活用場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休校中、学級閉鎖中の児童生徒に対する学習支援</li> </ul>
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画撮影用ビデオカメラ等</li> </ul> 
活動の概要	<p><b>A ウェブ会議システムを用いたホームルームを行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウェブ会議ソフト(例:Zoom、Teams 等)を用いて、家庭にいる児童生徒と顔を合わせてホームルーム(朝の会、帰りの会)を行う。</li> <li>・ 家庭学習に取り組ませる場合には、内容や取り組み方を説明する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 子供たちの顔を見ながら話ができるため、表情や様子から児童生徒の健康状態を確認できる。子供たちも自宅待機をしながら他の子や教職員の顔を見ることができる機会となるため、ホームルームの時間を楽しみにしている子供も多い。</li> <li>◎ 直接、顔を合わせて話し合えるため、伝えたい連絡を的確に伝えることができ、子供からもその場で質問を受けることができる。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>B オンデマンド形式の家庭学習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登校できない期間の学習支援として、オンデマンド形式(自分の都合のよい時に参加できる形式)の家庭学習に取り組ませる。子供は家庭で一人一台端末を使って教材を開き、学習に取り組む。</li> <li>・ 一人一台端末上で課題に取り組ませたり、オンデマンド教材や教科書を見ながら自分のノートや問題集を使って学習に取り組ませたりなど、取り組ませ方は様々である。紙媒体のノートや問題集に学習をさせた場合、取り組んだものを一人一台端末で撮影して提出させることで取り組みの様子を教職員が確認することができる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ オンデマンド形式のため、子供たちは自分で取り組む時間を決めて学習に臨むことができる。</li> <li>◎ オンデマンド教材を作成する際に、他のクラスで行った授業の板書の写真を利用したり、他のクラスで使ったスライドや映像教材等を利用したりすることで、教材を作成する教職員の負担を減らすことができる。</li> </ul> </li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="459 1462 898 1727">  <p>【実験の様子を撮影して作成した教材】</p> </div> <div data-bbox="943 1458 1390 1727">  <p>【授業で使用したスライドを利用した教材】</p> </div> </div>
この実践の良さ	<p>友達同士でつながりがもてるのは、休み中の子供にとってはうれしいことです。ウェブ会議システムを活用して顔を見ながら声掛けをしているので、休校中の子供が安心するとともに、生活リズムが整うという効果も期待できます。</p> <p>※ オンライン授業の著作権については、授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)のHPに詳しい事例が載っていますので、ぜひ参照してください。</p>

**BACK**

### 3 もっと教師もICT

## アイデア 13 会議資料や予定等、職員で共有したいものをデジタル化する

活用場面	・教職員の日々の校務
準備するもの	・PDFに変換するソフト、データを共有するクラウドスペース 
活動の概要	<p>職員会議等の資料、月・週予定、緊急時対応マニュアル、学校ガイドブック等をデジタル化したものをサーバーやクラウドに保存し、コンピュータでも一人一台端末でも閲覧できるようにする。資料を印刷する手間が省け、ペーパーレス化にもつながる。また、職員室に限らず教室でも常に情報を確認することができる。</p> <p>職員間の連絡事項を表計算ソフトで共有すれば、それぞれが必要な時に確認ができ、打合せの時間を削減することもできる。</p> <div data-bbox="552 947 1270 1249" style="text-align: center;">  </div> <p>【クラウドで共有している資料】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="391 1328 911 1659" style="text-align: center;">  <p>【一人一台端末を用いて連絡を伝える】</p> </div> <div data-bbox="919 1328 1437 1659" style="text-align: center;">  <p>【一人一台端末等に資料配布をする】</p> </div> </div>
この実践の良さ	<p>これまでは全てを紙に印刷していた学校現場も、ペーパーレス化が進んでいます。デジタルデータを丁寧に分類して保管しているので、年次をまたいだ二次利用も可能となり、業務改善にも大きく貢献しています。</p>

### 3 もっと教師もICT

## アイデア 14 一人一台端末を用いて、健康観察等を行う

活用場面	・朝の健康観察、検温																				
準備するもの	・出欠席や健康状態を確認できる学習支援ソフト																				
活動の概要	<p><b>1 朝の検温結果を、一人一台端末に記録する</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・朝、学校に登校したら一人一台端末で「出席」にチェックを入れ、朝の検温結果の入力をする。</li><li>・出席した生徒でも、体調が思わしくなければ該当項目にチェックを入れる。<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 毎日、検温票を回収・返却する必要がなくなる。</li><li>◎ 教職員間で情報共有ができるため、養護教諭が保健室に来室した子供の朝の時点での検温や症状をパソコンや一人一台端末からすぐに確認できる。</li><li>◎ 体調不良の症状がでた子供の検温や健康状態を、日をさかのぼって確認することができる。</li></ul></li></ul> <p><b>2 遅刻をして学校に来た時、早退をする時に一人一台端末に記録する</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子供が自分で入力できるときには自分で、体調不良等で入力できないときには教職員が入力をする。<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 教員間で情報共有ができるため、子供が不在の理由をPCや一人一台端末からすぐに確認できる。</li><li>◎ 記録が残せるため、出席簿の作成や確認に役立てることができる。</li><li>◎ 家庭で保護者に入力をしてもらえば、出欠席の連絡をICTで行うことができる。</li></ul></li></ul> <table border="1"><thead><tr><th>名前</th><th>出欠</th><th>体温</th><th>理由</th></tr></thead><tbody><tr><td>生徒A</td><td>● 遅刻</td><td>36.5℃</td><td></td></tr><tr><td>生徒B</td><td>● 出席</td><td>36.1℃</td><td></td></tr><tr><td>生徒C</td><td>● 出席</td><td>36.5℃</td><td></td></tr><tr><td>生徒D</td><td>● 欠席</td><td>36.5℃</td><td>頭痛、腹痛、気分不良</td></tr></tbody></table> <p>【健康観察確認画面】</p>	名前	出欠	体温	理由	生徒A	● 遅刻	36.5℃		生徒B	● 出席	36.1℃		生徒C	● 出席	36.5℃		生徒D	● 欠席	36.5℃	頭痛、腹痛、気分不良
名前	出欠	体温	理由																		
生徒A	● 遅刻	36.5℃																			
生徒B	● 出席	36.1℃																			
生徒C	● 出席	36.5℃																			
生徒D	● 欠席	36.5℃	頭痛、腹痛、気分不良																		
この実践の良さ	健康観察や欠席の状況をデジタル化すると、子供の健康状況を複数の職員で確認できるため、不応等に対する初期対応も迅速になるなど、生徒指導の面においても大きな効果が期待できます。																				

BACK

## 3 もっと教師もICT

### アイデア 15 行事等の振り返りや反省にウェブのアンケート機能を使う

活用場面	・ 行事等の振り返りや反省、保護者へのアンケート
準備するもの	・ ウェブアンケートフォーム機能のあるソフト 
活動の概要	<p><b>1 アンケートを作成する</b></p> <p>(1) ウェブアンケートフォーム（例：Microsoft Forms、Google Form）を立ち上げる。</p> <p>(2) 「新しいフォームを作成」からアンケートを作成する。</p> <p>① タイトルやその説明をはじめにつける。</p> <p>② 選択式や記述式が選べるため、アンケートしたい内容に合わせて作成する。</p> <p>(3) アンケートの作成後、公開する URL を短縮し、二次元バーコードを作る。</p> <p>① 「送信」をクリックする。</p> <p>② 真ん中の「リンク」タブをクリックする。</p> <p>③ 「URLを短縮」にチェックを入れる。</p> <p>④ 「コピー」をクリックし、URLをコピーする。</p> <p>⑤ 二次元バーコードを作成できるサイトへ移動し、二次元バーコードを作成する。</p> <p><b>2 アンケートに答えてもらう</b></p> <p>◎ 子供たちや教職員方に、回答してもらうときは学習支援ソフトを使うとよい。</p> <p>◎ 保護者に回答してもらうときは、メールでURLや二次元バーコードを送るなどの方法がある。</p> <p><b>3 アンケート後のデータ処理について</b></p> <p>◎ 作成したフォームにデータが集まってくる。選択式については、項目ごとに円グラフが作成されるので一目でわかる。</p> <div data-bbox="1066 624 1414 1205">  </div> <p>【アンケートに回答してもらう方法を選択することができる】</p> <div data-bbox="1066 1344 1414 1727">  </div> <p>【自動で円グラフが作成される】</p>
この実践の良さ	<p>難しそうに感じるウェブでのアンケートフォームですが、一度やってみると思った以上に簡単に作成・集計ができます。二次元バーコードを活用しているため、答える保護者にとっても、参加しやすいという良さがあります。</p>

### 3 もっと教師もICT

## アイデア 16 教職員が一人一台端末を使う機会を増やす

活用場面	・朝の会や帰りの会での子供への連絡
準備するもの	・ウェブ会議や、ファイルの配布ができる学習支援ソフト  クラスルーム  Google Classroom™  Teams
活動の概要	<p>市町村ごとに、教職員と子供がつながるアプリ(学習支援ソフト等)があるので、それを活用し、教職員が子供たちに一人一台端末を通して連絡する仕組みをつくる。使う機会を増やすことで、一人一台端末に苦手意識をもつ教職員にも慣れてもらうことができる。</p> <p>ここでは無料で利用できる「Google Classroom」で、担任が連絡帳の内容を配信する。</p> <p>&lt;担任が学級の子供に連絡帳を配信する例&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 担任と学級の子供全員に「Googleアカウント」を準備する。 市町村のセキュリティポリシーが許せば、無料で作成することができる。</li><li>② 「Google Classroom」で学級全員と担任が所属する「クラス」を作成する。</li><li>③ 担任が明日の連絡を「クラスへの連絡事項」で配信する。</li><li>④ 子供は一人一台端末を持ち帰り、翌日の準備等に利用する。必要があれば、保護者に見せるなどの約束事も決めておくといよい。</li></ol> <p>これまでは、連絡帳を「子供が書く時間」「担任が点検する時間」などがあったが、この時間をなくすことができれば、別のことに時間を使うことができる。あくまで一例のため、他にも「朝の会の『先生からの連絡』を事前に配信し、朝のうちに子供たちに読ませておく」「担任が欠席や出張の場合の自習内容を配信する」などの活用も考えられる。</p> <p>また、委員会や部活動等の「クラス」ができていれば、それらの連絡も、伝えたい子供の一人一台端末に送ることができる。配信の対象者や、導入されているアプリに合わせて、さまざまな活用方法が考えられる。</p>
この実践の良さ	学級だけでなく、委員会や部活動等、子供の活動に合わせた様々なグループを作り、連絡を容易にしている実践です。文字を見ながら連絡や予定を確認することができるので、全ての子供が安心して取り組むことができます。

BACK

### 3 もっと教師もICT

## アイデア 17 校内研修でICTを活用する場면을意図的につくる

活用場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内研修、職員会議、職員間での打ち合わせ</li> </ul>
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウェブ会議機能のある学習支援ソフト、プロジェクター</li> </ul>  <p>フリーボード クラスルーム Google Jamboard™ Google Classroom™ Whiteboard Teams</p>
活動の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各教室に少人数で分かれる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウェブ会議機能のある学習支援ソフトを立ち上げる。</li> </ul> </li> <li>2 研修の内容や会議の検討事項について、少人数で意見を出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホワイトボードアプリを使い、その班の意見をまとめる。</li> </ul> </li> <li>3 ホワイトボードアプリの内容を共有する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の班の意見を短時間で共有することが可能である。</li> </ul> </li> <li>4 他の班からの意見を共有する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習支援ソフトのチャット機能を使い、気軽に意見交換をする。</li> </ul> </li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 意図的にウェブ機能、チャット機能、ホワイトボードアプリを実際に使用することで、授業で活用するイメージづくりをする。</li> <li>◎ 少人数で話し合うことにより、気軽に自分の考えを伝えることができる。</li> <li>◎ 少人数で分かれることにより、コロナ対策も可能となる。</li> <li>◎ 企業や研究機関の専門家の遠隔講義（Web セミナー）も授業することができる。</li> </ul>
この実践の良さ	<p>教職員研修や会議と、授業でのグループ活動等は、共通する部分が多くあるため、多くの先進的な学校でも、まずは教職員自身が使うことから始めています。研修と授業づくりとが自然とつながっていくところに良さがあります。</p>

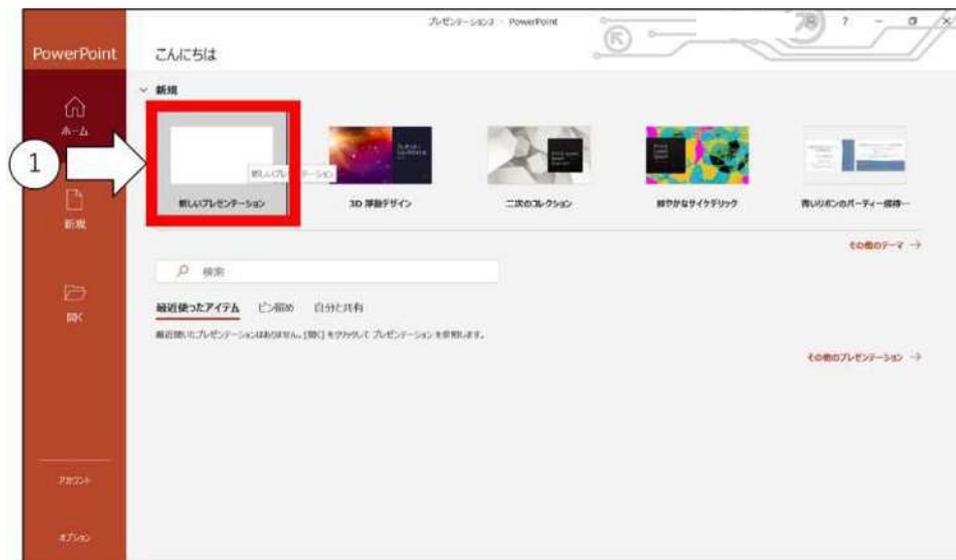
# Power Point 翻訳機能 操作手順書

PowerPoint に搭載されている「字幕」機能を使うと、スライドショー実行中にひろった言葉をリアルタイムでそのまま画面上に字幕として表示することができます。

## 手順①

Power Point を開きます。

新しいプレゼンテーションをクリックしてください。



## 手順②

スライドショーをクリックしてください。



手順③

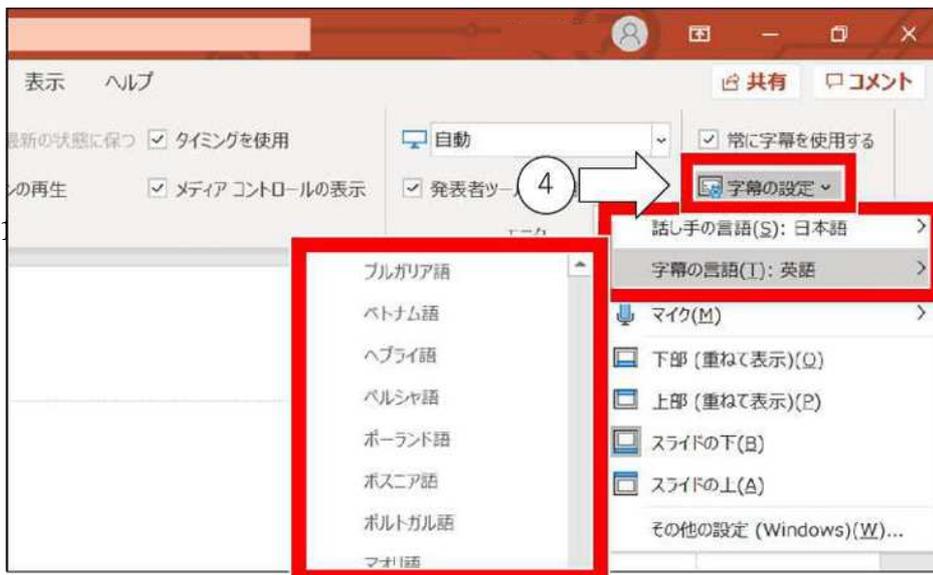
【常に字幕を使用する】にチェックをいれてください。



手順④

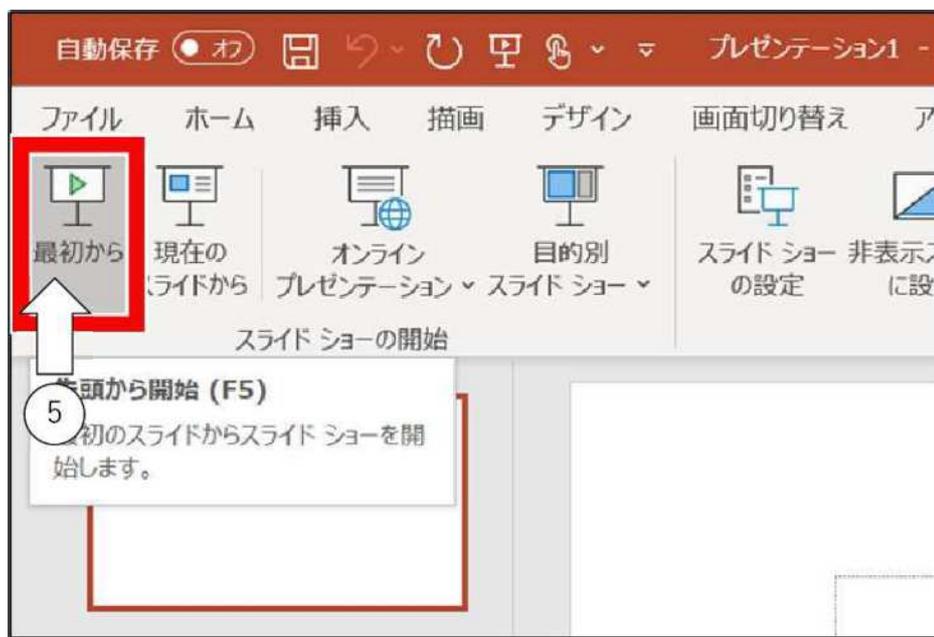
【字幕の設定】をクリックします。

【話し手の言語】と【字幕の言語】の設定をしてください。

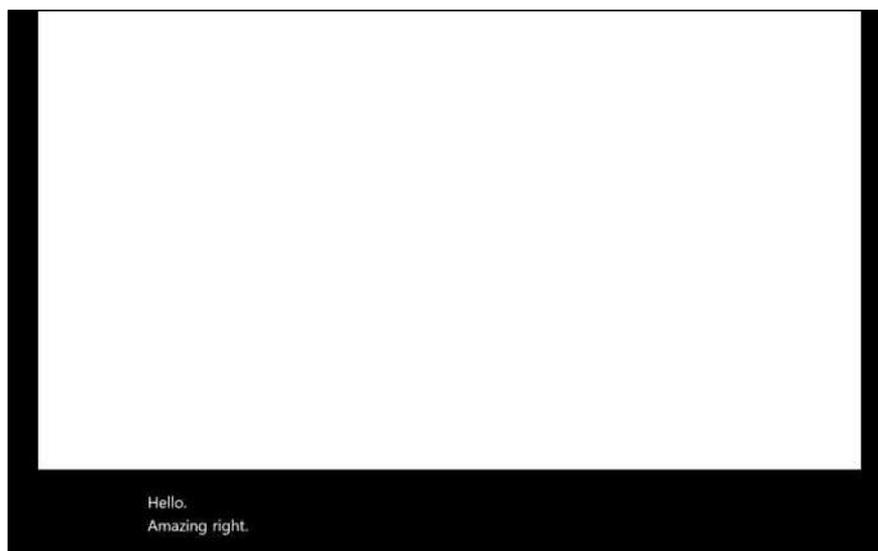


手順⑤

スライドショーを開始してください。



字幕の言語を英語に設定したときの画面です。



以上で操作手順終了です。